



平成 19 年 7 月度

マックスールプレス



【事業企画部 宮田部長】



【業務推進部 宮地部長】

今後の経営の方向性

小田垣 3回目の対談は、「マックスールの展望と戦略」をテーマに事業企画部の宮田部長と業務推進部の宮地部長にお話をお伺いしたいと思います。現在の異病院の現状についてまずお話をお願い致します。

宮田 ドクターを始め、非常に良い人材が集まってきており、地域の救急医療施設としての役割を充分果たせる体制が整ってきた。救急としての異病院へのプロセスは順調に進んでいます。

宮地 今年の取り組みとして、DPC(医療の包括評価制度:診断(Diagnosis)と診療行為(Procedure)を組み合わせ(Combination))導入に向けての準備は、我々が向かう方向を示していると思います。

小田垣 急性期医療への対応における考え方はいかがでしょうか？

宮田 地域の皆様から、信頼を得ていくためには救急医療の充実が欠かせない。断らない体制と退院後は開業医に帰していく連携姿勢が必要です。

宮地 マックスールは慢性期(回復期)を行う異今宮病院や老健および在宅事業所を持っています。急性期を脱した方の受入先として、在宅までの流れをスムーズに作る事ができます。地域の皆さまからの要望に充分応えるべく、急性期医療を目指して集まった職員はやりがいを感じています。すなわち、それが「患者様・利用者様の満足度」につながり、「職員の満足度」にもつながっています。

小田垣 異理事長との対談の中でもお話にあったように異今宮病院の受入体制の確立と連携の強化が重要になってくるわけですね。

宮田 そうです。異今宮病院が今まで以上にその機能を十分に発揮できるよう医師を含めた人員体制の確保を行っています。異病院の救急体制が充実してくれば、異今宮病院との連携強化が不可欠です。

宮田 また、救急診療体制の充実を図るために豊能地区で不足している循環器などの救急受入体制の強化と救急隊や地域の皆様への認知度を高めるための活動も必要です。

小田垣 それでは、老健に関してはいかがでしょうか？

宮地 老健の一番の良さは「病院」と併設されていることでしょう。利用者さまの状態が悪化した場合など、異病院で迅速な治療を行うことができます。これは、入所されている方はもちろん、ご家族にとっても、安心して療養生活を送っていただける、大きなメリットだと思います。これは、マックスールの介護系の事業体すべてに言えることです。

小田垣 それでは最後に一言ずつお願いします。

宮田 働いているスタッフが夢を持って働ける職場作りが大切と考えています。それが患者さまの要望される「より良い医療の提供」に繋がります。みんながどういう方向を向いて急性期医療を真剣に考え取り組んでいくのかその姿勢を大切にできる組織作りに取り組んでいます。

宮地 夢を語る事ができる人材の獲得と育成のため、多くのスタッフが各種研修会へも積極的に参加できる組織作りをしています。職員はもとより建物、敷地をできるだけ流動的に活用し、より効率的で良質な医療を提供するため、病院のリニューアルを平成25年までを目途に目指します。

小田垣 夢を語れる職場作りは、全職員の理想です。実現に向けてがんばって下さい。



部署紹介(巽今宮病院)

医局

副院長 小林 宏行

巽今宮病院が2006年5月に開院した当初は新入職者が9割を占め、全くゼロからの出発といってもよい状態がありました。箕面という新天地での病院開設である上に、医療制度の変革が始まった時期でもあり、その影響をものに受ける回復期と療養病床を併せ持つ新病院であった事などが重なり、まさに混乱の1年であったといえます。暗中模索という言葉がありますが、闇の中に一抹の灯火が見え隠れしている方向へ皆で進んで行っているような感覚です。

ここ数年改革と称して変更されてきた医療制度のために生じてきた医師と看護師の偏在的不足の状況や、高齢者の切り捨てとも思える医療制度の改悪などの状況の下、医療者としての心を見失うことなく、安全な医療をし、働きやすくなる職場を作っていくよう職員一同頑張っています。この8月にはようやく待望の新医師が来てくださる予定もあり、灯火の輝きがより増したような気持ちであることを近況報告とさせていただきます。

病気アラカルト

心房細動と言う名の不整脈！

心臓血管科 小田垣 正言

みなさまは、心房細動と言う不整脈を知っておられますか？心房細動は、心房の筋肉が不規則に震えた状態になるもので、加齢に伴い増加します。

急死することはまれですが、血液の流れが滞り、血のかたまり(血栓)ができやすくなって、脳梗塞などの原因となることがあります。(長島茂雄氏や小淵元首相など)慢性の心房細動の場合血栓の予防のために、抗血小板薬や抗凝固薬などを服用する場合があります。早期発見時内服治療や電気ショックなどの心房細動の治療を行う事により、正常な調律に戻す事が出来ます。また、最近はカテーテルによる治療も確立されて来ています。まずは、病院にて診断を受け、適切な治療を行う事が、脳梗塞などの合併症を防ぐ一番の方法です。

また心房細動は、精神的・肉体的ストレス、不眠、不安、緊張などにより悪化することが知られています。ストレスを避け、規則正しい生活を心がけましょう。

脈をとる習慣を!



脈のはかり方

手首の親指側にある橈骨動脈に軽く指を触れ、脈拍を数えます。



安静時、1分間に60~80回、規則正しく打っていれば正常。

不整脈の
原因となるもの

ストレス 過労 睡眠不足
アルコール たばこ コーヒー



●●● お知らせ ●●●

救急看護 QUESTION BOX 7

救急患者・家族への倫理的・全人的ケア
(発行所;中山書店)

中谷副院長執筆

「虐待が疑われる患者・家族に対する看護師の対応で求められることは何ですか？」が掲載されています。

